

一般社団法人こころスマイルプロジェクト



子どもたちが震災前の日常と笑顔を取り戻せるよう
一人ひとりに寄り添い ともに一歩ずつ歩んでいきます

事務局

〒986-0861 石巻市蛇田土和田山17-40

TEL・FAX 0225-98-9815

ホームページ：<http://kokoro-smile.org/>

こころスマイルの支援対象者

こころスマイルプロジェクトは支援からこぼれ落ちた子どもたちのサポートを目的に設立した団体です。



子ども	<ul style="list-style-type: none">• 家族を亡くした子ども• DV・ネグレクト・ヤングケアラー• 不登校児童
保護者	<ul style="list-style-type: none">• 親を亡くした子どもの保護者• 不登校児童の保護者• 子どもを亡くした母親・父親
女性	<ul style="list-style-type: none">• 身体、性的虐待• 就労支援• 起業支援



子どもサポート事業(1) こころのケア

震災、自死、事故、病気など、大切な家族を突然亡くした子どもたちや、災害や家族の自死を目の当たりにし、心に大きな衝撃を受け、PTSD(心的外傷後ストレス障害)・小児鬱・統合失調症等、心に深く傷を負い不登校となった子どもたちを対象に、アートや遊びを通じたこころのケアを行っています。子どもたちが安全で安心できる環境(場所と人)で伸び伸びと過ごし、自分に起きた出来事を整理し、傷ついた心を自己治癒力で癒しながら、経験を力に変え、自分の人生を自分らしく生きていけるよう、心の基盤作りをサポートしています。

◆ 個別サポート事業

子どもは心の中の「ざわざわ」した気持ち(悲しみ・怒り・喪失感)や、漠然とした不安、イライラがどうしてなのか、自分でも理解できず言葉で上手く説明することができません。このような気持ちをずっと一人で溜め込み、抱え込んでしまうと、子どもの心がいつか壊れてしまいます。子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、遊びやアートを通じて、言葉にできない気持ちを外に表出(吐き出す)し、安心感を得られるようお手伝いをします。



子どもアートセラピー
言語化できない不安感情を
アートを通じて表出します

◆ ファミリーサポート事業

大切な家族を亡くした子どもと保護者(親や養育者)を対象に、ファミリーアートを行っています。震災で大切な我が子を亡くした母親の中には、生き残った子どもに向き合えず、愛情不足や不安から、生きていることを肯定できずに苦しむ子どもが少なからずいます。アートを通じて共にリラックスし、より絆を深めることで、子どもが安心して過ごせる家庭作りをサポートします。



ファミリーアート
親子共にリラックスし絆を深めます



子どもサポート事業(2) グリーフケア



◆子どものグリーフケアプログラム(月5回)

家族を亡くした子どもたちが集い、安心・安全な空間で、グリーフケアを学んだ大人の見守りの下、遊びや会話を通じて悲しみを癒すプログラムです。地域で子どもたちを支えるための取り組み、担い手を育成する『グリーフケア・ファシリテーター養成講座』を年2回実施しています。

◆イベントの開催

クリスマス、卒業式、誕生日など、季節のイベントや節目になる行事は、子どもたちにとって嬉しい反面、亡くした家族との思い出がよみがえり、悲しみや恋しさ、時には怒りに似た感情を引き起こすことがあります。同じ境遇の子どもたちが集い、イベントを楽しみ、卒業を祝うことで、「ひとりじゃない」ことを認識します。また誕生日を祝うことは、家族を亡くし、生きていることを肯定できない子どもたちが、生まれてきたこと、生きていることを肯定する手助けとなります。



◆子ども食堂

家族を亡くした子どもたちは、2人きりの寂しい食卓が多く、特に父子家庭の遺児たちは、子ども一人で食事をすることも少なくありません。また母親を亡くした子どもたちの多くは、料理経験がなく野菜や食材の名前を知りません。料理教室や食育を兼ねて、皆で一緒に調理を行い、アットホームな雰囲気です。食卓を囲む楽しさ、温かさを味わうことで、こころの安定と健康増進に寄与することを目的に実施しています。



子どもサポート事業(3) 不登校児童の復学支援



震災後、さまざまな理由で不登校となり、孤立し声を上げられない子どもたちやご家族が居ます。私たちは、子どもたちの「心の声」に耳を傾け、一人ひとりが抱える悩みや問題を解決するため、子どもや保護者と一緒に考えていきます。

こころのケアと並行し、復学後もスムーズに授業を受けられるよう必要に応じて学習支援も行います。復学・社会復帰後も、孤立・不登校再発防止のフォローアップを行います。

不登校期間

サポートにより復学

引きこもり り 孤立

- ・家庭訪問(現状把握)
- ・保護者の傾聴
- ・保護者との関係作り

訪問 サポート

- ・子どもとの関係作り
- ・会話、室内遊び
- ・外への連れ出し
- ・生活リズムの改善
- ・家庭の問題解決

スマイル ハウス

- ・アートセラピー
- ・学習支援
- ・小グループ活動
- ・保護者相談
- ・学校訪問
担任・養護教諭との連携
学校と保護者の関係修復
- ・付き添い登校
- ・保健室登校

復学

- ・フォローアップ
- ・定期的な見守り
家庭訪問による面談
電話・メール相談



保護者相談事業

子どもの心の安定には親(養育者)の精神面の安定が重要と考え、保護者相談を実施しています。いつでも相談できるよう、電話・メール相談は24時間サポートしています。

◆ 家族を亡くした保護者(親・祖父母・養育者)

震災で夫や妻を亡くし、仕事と子育てを一人で背負い込んでいる保護者や、孫を育てている祖父母は、身近に相談できる相手や心の内を打ち明ける相手が周囲におらず、自分の境遇や悩みは他人に理解してもらえないと思い、誰にも相談できず孤立しているケースが少なくありません。また、子どもを亡くした母親は、悲嘆状態が続いていたり、亡くした子どもへの思いが強く、生き残った子どもへ愛情を向けられない親や、無意識に、亡くした子どもの人生を歩ませよう(身代わり)とする親もいます。保護者のサポートを行うことにより、家庭内での子どもの不安やストレスを軽減し、安心して子育てをできる家庭作りに寄与することを目的とし実施しています。

◆ 不登校・怠学児童を抱える保護者

子育てや家庭、学校の事など、保護者が抱える悩みの相談にのり、日常的なストレスを軽減することで、子どもへの対応にも余裕が生まれ、子どもの不安やストレス軽減につながります。スマイルハウスでの面談以外にも、家庭訪問・電話・メール・SNSでの相談を365日24時間実施しています。

◆ 子どもを亡くした母の会(ピア・カウンセリング)

大切な我が子を亡くし、悲しみ、痛み、怒り、喪失感を抱える母親同士が気兼ねなく語り合える場として、定期的にお茶会を開いています。同じ境遇の母親同士が支え合うことで、引きこもりや孤立、自殺防止、鬱病などの発症予防を目的として開催しています。

◆ 家庭訪問・個別面談(傾聴・カウンセリング)

鬱やネグレクト傾向にある家庭を定期的に訪問し、家庭状況を確認することで、子どもが危険な状態に陥らないよう、行政など関係機関と連携しサポートしています。

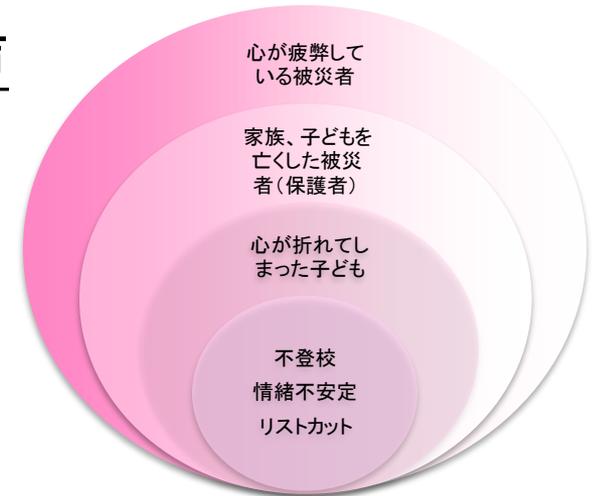




こころスマイル利用者の声

震災から5年が経った頃、子どもの問題行動や不眠が始まり悩んでいた時、同じ遺族からこころスマイルを紹介されました。親子でアートセラピーを行ってから、子どもの情緒不安や問題行動が収まり、学校でも明るくなりました。自分の子どもは大丈夫だろうと思い込んでおり、子どもの苦しみに気付いてあげるのに5年以上もかかってしまいました。こころスマイルは、子どもも親も何でも相談できて安心できる場所です。

2017年3月（小3・中3の母親）



こころスマイルの人たちは、暖かい人柄や面白い人たちばかりで、自分にとってこころスマイルは落ち着ける場所です。こころスマイルに通い始めてから病気の症状が良くなり最初は4錠だった薬が今では半分に減りました。またバイト先も紹介してもらい社会で働けるようになりました。今年の1月から学習支援もしてもらい2月に受けた高校入試も合格することができました。本当にこころスマイルの人たちにはとても感謝しています。

2016年3月 17才高校生

震災で娘と1歳の孫を失い、残されたもう一人の孫の親代わりとなり、どうしようもない悲しみと喪失感の中、ただ必死に当時5歳の孫を育てるのに無我夢中の日々でしたが、昨年こころスマイルハウスを知る機会がありました。同じ年頃の子もたちや親身になって接して下さるスタッフのみなさんがいらっしやることで、孫はここへ来ることをとても楽しみにしております。私としましては、親代わりとして正しく孫に接することができるのか不安に思うことが多々あるのですが、そのような悩みを相談でき、適切なアドバイスをいただけることを本当にありがたいと思っています。震災後すぐにはこのような施設があること自体知りませんでしたし、生活を立て直すことで精一杯で自分から何か積極的に動くということもできませんでした。私と同じような境遇にある方はたくさんいらっしやることと思いますが、本当に必要としている人にぜひこの施設を知ってもらい、利用して欲しいと思います。

2015年3月

小学3年生の祖母(震災当時5歳)



学校連携事業

「駄菓子屋ワゴン」 買い物体験教室

おもちゃのコイン500円玉を使い、自分で計算しながら駄菓子を購入する買い物体験授業です。算数教育の他、挨拶など社会生活に必要な基本マナーを学ぶ場として、小学校の生活科の補助教育や、特別支援学級の生活科単元としても取り入れられています。

「駄菓子屋ワゴン」のはじまり

東日本大震で被災した子どもたちは、避難所で同じ食料を「与えられる」だけの生活で、自ら自由に「選択」できる環境や余裕はありませんでした。

給食支援を行っていた学校から、遠足のおやつを支援して欲しいとの依頼を受けた際、おやつを買って届けるだけでなく、子どもたちがお店で買い物をするように、自分で選ぶことができないかと考えました。しかし、被災した学校は、津波の被害を免れた学校の空き教室を間借りしていたため、自由に使える教室がありません。学校や先生方に負担をかけないよう、お菓子をたくさん積んだワゴン車で訪問し、移動販売形式で、休み時間や下校時に買い物して貰おうと考えついたのが、「駄菓子屋ワゴン」です。

この取り組みは、子どもたちは勿論、先生方にも大変好評で、現在も算数教育の他、挨拶など社会生活に必要な基本マナーを学ぶ場として、被災地域の小学校で、生活科の補助教育や、特別支援学級の生活科単元としても取り入れられています。



2024年度 運営体制

代表理事 グリーフケア共同代表	志村知穂	事業統括・保護者相談・カウンセリング・ 不登校ひきこもり訪問・アートセラピー・ 子どもを亡くした母の会運営
理事 グリーフケア共同代表	遠藤 伸一	グリーフケアプログラム・広報活動・地域連 携・施設・遊具の安全管理
理事	佐藤 賢一	不登校中高生の学習支援・孤児・遺児の学習 支援
理事	岩田 清治	メンタルヘルス教育・専門家との連携
事務局長	清水 昭良	経理・運営管理・ファンドレイジング
スタッフ	大津 広樹	子どもサポート・不登校調査訪問・グリーフ ケアプログラム・見守り訪問活動（震災遺 児・孤児）
スタッフ	阿部 節	子どもサポート・運動指導・学習支援
ボランティアスタッフ	大学生2名・高校生1 名・社会人2名	不登校中高生のサポート・学習支援・イベン ト
地域住民ファシリテ ーター	大人20名 大学生7名	子どものグリーフケアプログラム・イベント



こころスマイルハウス
〒986-0861 石巻市蛇田土和田山17-40
TEL・FAX 0225-98-9815
ホームページ:<http://kokoro-smile.org/>



こころスマイルハウス 2014年12月開所



スマイルパーク 2016年1月完成



子どものグリーンケア施設 2017年4月完成

